

全国シルクのまち情報誌

知・る・く

令和3年3月

No.12



シルクノチカラ 2020 ファッションショー（山形県鶴岡市）  
鶴岡中央高等学校シルクガールズ

## シルクのまちづくり市区町村協議会

情報誌の名称の『知・る・く』は、「シルク」の事を「知る」、「シルク」の街を「歩く」という意味が込められており、3つのフレーズを融合させた造語です。

「知」の「口」部分は絹糸をイメージ。同時にシルクの無限大（∞）の可能性も表現しています。

「く」の下部には靴をあしらひ、街を歩くイメージと協議会の前進の意味を込めました。

## **No.12>>>Contents**

---

### **●産地ブランドマークのご紹介**

---

- (1) 伊予生糸ブランドロゴ (愛媛県西予市) ..... 1

### **●会員自治体の情報(シルクに関わるイベントや取り組みなど)**

---

- (1) 京都府京丹後市 ..... 2
- (2) 群馬県富岡市 ..... 4
- (3) 山形県鶴岡市 ..... 6

### **《参考資料》**

---

- シルクのまちづくり市区町村協議会・構成員一覧 ..... 9
- シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣意書 ..... 11

## 産地ブランドマークのご紹介

### 伊予生糸ブランドロゴ（愛媛県西予市）



- ブランドマーク名  
伊予生糸ブランドロゴ
- ブランドマークの説明

平成28年2月に登録された地理的表示保護制度（GI）ロゴに伊予生糸とシンブルに配置したデザイン。

「最高級国産シルクを世界に届ける」という意味が込められています。

---

## 会員自治体の情報(シルクに関わるイベントや取り組みなど)

---

「丹後ちりめん創業 300 年 —SILK WEEKS IN TANGO、シルクサミット 2020 in 丹後—」を開催

### 【はじめに】

京丹後市は、京都府の最北端に位置する人口約 5 万 4 千人のまちです。隣町の与謝野町とともに、現在でも国内の和装用白生地 の 6 割を生産する「丹後ちりめん」の産地です。

2020 年は、丹後ちりめんの始祖である絹屋佐平治が、丹後ちりめんを創業してから 300 年という節目の年にあたり、創業 300 年事業「SILK WEEKS IN TANGO」を当地で開催しました。

### 【SILK WEEKS IN TANGO -TANGO TEXTILE EXHIBITION-】

会期：令和 2 年 10 月 20 日～11 月 1 日

場所：丹後織物工業組合特設会場（京都府京丹後市大宮町）

主催：丹後織物工業組合、丹後ちりめん創業 300 年事業実行委員会

例年、丹後織物工業組合が京都市内にて開催している「丹後織物求評会」を約 20 年ぶりに京丹後市内にて開催しました。悔しくも、2020 年は新型コロナウイルス感染症の影響により創業 300 年事業においても様々な事業変更を余技なくされていましたが、関係各位のご協力のおかげで、展示会場には 41 業者から出品された 274 点の作品展示、丹後ちりめん創業 300 年事業で取り組んだ成果発表や、西陣織工業組合のご協力のもと丹後産地で製織された先染め織物も展示することができ、延べ 12 日間で約 1,000 名の来場者を迎えることが出来ました。

初日には創業 300 年事業に関わった外部識者と産地の織物事業者によるパネルディスカッションが行われ、リモートで参加した国内外で活躍するデザイナー等からも丹後ちりめん（白生地）のすばらしさはもとより多様な織物が生み出されてきた産地の革新性とクラフトマンシップの重要性が語られました。

### 【シルクサミット 2020 in 丹後】

会期：令和 2 年 10 月 23 日、24 日

場所：大宮アグリセンター（京都府京丹後市大宮町）

主催：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）、一般財団法人大日本蚕糸会、岡谷蚕糸博物館、シルクサミット 2020in 丹後実行委員会

全国で養蚕・製糸・染織等の生産活動をしているかたや博物館・資料館で活動している方々が相互に意見交換や情報・技術の交流を行う「シルクサミット」を開催しました。

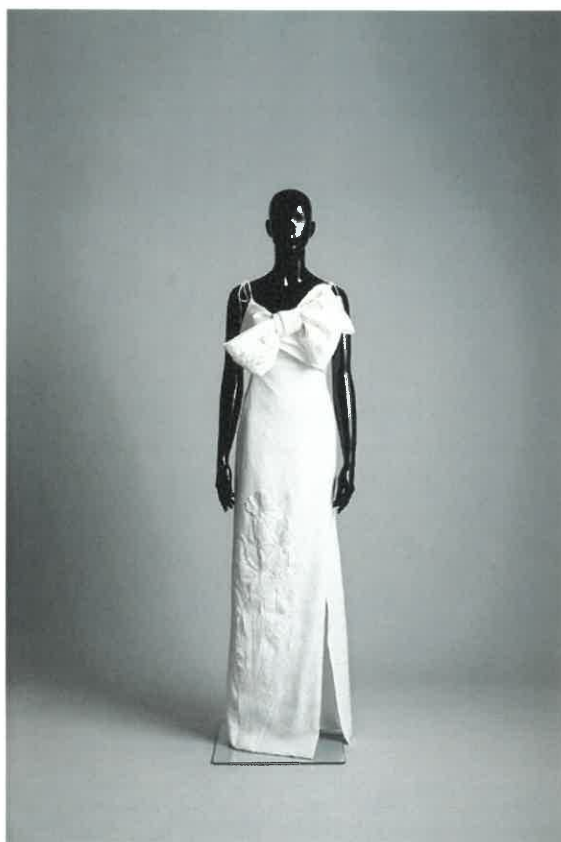
18年ぶりの丹後地域での開催となった今回、初日には丹後織物工業組合今井英之理事長による「丹後ちりめん創業300年世界の絹織物産地を目指して」と題した基調講演が行われ、その後の研究活動報告では、農研機構の飯塚哲也上級研究員による「遺伝子組換えシルクの利用」、大妻女子大学阿部栄子教授による「丹後ちりめんを用いた窮極のサステイナブル着物について」、京都工芸繊維大学小谷英治教授による「新シルク事業化をめざしたカイコのバイオテクノロジー研究」、ひらく織実行委員会実行委員長高岡徹氏による「ひらく織の取組について」、京都府織物・機械金属振興センター徳本幸紘氏による「丹後ちりめんの特徴及び用途を展開する取組について」の5件の報告が行われました。

全国から約140名のご参加をいただき、例年と異なり限られた時間での交流となりましたが、「シルク」の活用について様々な意見交換が行われました。

※基調講演及び活動事例報告の内容をまとめた資料は、下記ホームページからダウンロードしてご覧いただけます。

シルクサミット2020 in 丹後 特設サイト

<https://sites.google.com/view/silksummit/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>



EXHIBITIONでは映像で紹介された白生地を活用したドレス Yumi Katsura Paris Couture Collection 「TANGO OPEN “WHITE COLLECTION”」 写真は3体制作された内の1体

## 2020年10月富岡製糸場 国宝「西置繭所」OPEN

2020年5月、富岡製糸場（群馬県富岡市）の国宝「西置繭所」の長期にわたる保存修理・整備活用工事が完了し、同年10月、待望の公開活用が始まりました。

1階内部には、耐震補強用の鉄骨材を骨組みとしたガラスの部屋が整備され、資料展示室と多目的ホールが誕生しました。

ガラスの多目的ホールは、世界遺産・国宝の中にある希少で特別なユニークベニュー。今後、多様な活用を行ってまいります。



明治5年、官営模範工場として誕生した富岡製糸場。西置繭所は2棟ある繭倉庫のうちの一つ。



一階南側の資料展示室。富岡製糸場での暮らしと労働、生糸づくりについて展示解説。



エントランス付近。操業中、繭袋を運んだリフトが残る。



ホールへと続くホワイエ。富岡製糸場の歴史を伝える16mに及ぶ見ごたえのある年表を展示。



約250㎡のガラスのホール。オープン記念では講演会や演劇、コンサートなどを実施。



2階の展示エリアでは繭倉庫だった頃の雰囲気を体感できる。

# 群馬県富岡市の ふるさと納税で

新登場

# 世界遺産 富岡製糸場 一日場長体験

富岡市は、ふるさと納税の返礼品に、世界遺産 富岡製糸場 一日場長体験を追加しました。

お一人様でも、ご家族でも体験ができます。

寄付  
金額

250,000円

主な内容

- 委嘱状の交付
- 選べる富岡シルク製品のプレゼント
- 普段見られない施設をご案内&写真撮影
- 座繰り体験・繭クラフト体験
- 撮影した写真をCDに入れてプレゼント

富岡市イメージキャラクター おるちゃん



群馬県 富岡市

2020.12



ふるさと納税は簡単＆便利なポータルサイトから

# 山形県鶴岡市 鶴岡シルクタウン・プロジェクト

## 「シルクノチカラ 2020」開催報告

山形県鶴岡市で、令和2年11月22日（日）にシルクのまちPRイベントである、「シルクノチカラ2020」を開催しましたので、その取組をご紹介します。

### 1. 鶴岡市と「シルクノチカラ」について

鶴岡市をはじめとする庄内地域は、旧庄内藩士が刀を鋤に持ち替えて原野を開墾し、日本最大級の蚕室群を建設した松ヶ岡を発祥とする国内最北端の絹産地です。また、今なお養蚕から絹織物の製品化まで一貫した工程が残る国内唯一の地です。

鶴岡市では、本市近代化の礎となった絹産業の文化を継承しながら、新たな産業振興と絹文化の創造・発展を目指すため、「鶴岡シルクタウン・プロジェクト」に取り組んでいます。

平成29年には、鶴岡に息づくシルクの物語と文化財が評価され、日本遺産「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」が認定され、日本遺産とシルクという地域資源を活用した観光振興、地域活性化への期待が高まっています。また、近年では、鶴岡市内の高校、高等専門学校生徒たちがシルクをテーマとした研究など創造的な活動を行っています。

「シルクノチカラ」は、鶴岡の将来を担う若者たちとシルクに関わる多くの方々の取組の発表を通して、日本遺産とシルクの魅力と可能性に触れ、新たな鶴岡のまちづくりについて考えるイベントです。

### 2. 開催概要

■ イベント名称／シルクノチカラ2020 ～伝統と革新がつなぐ Tsuruoka のミライ～

■ 開催日時／令和2年11月22日（日）午後1時30分～午後3時50分  
（展示コーナー：午前10時～）

■ 会場／荘銀タクト鶴岡 大ホール及びエントランス

#### ■ 内容／

＜大ホール＞

第1部 地元高校生によるシルクをテーマとした課題研究の発表

- ① 鶴岡工業高等学校「伝統ある鶴岡の絹産業を、シルクチーフづくりを通じて伝えたい！」
- ② 鶴岡工業高等学校（定時制）「養蚕の自動化と効率化」
- ③ 鶴岡南高等学校「きびそを使ったセリシンの抽出」
- ④ 鶴岡中央高等学校「カイコの一生 ～シルクの誕生～」



第2部 鶴岡中央高等学校シルクガールズによるファッションショー  
「シルクガールズコレクション2020 Our Silk ～希望の糸～」  
＜エントランス＞  
地元高校生によるシルクをテーマとした課題研究に関する展示 など

■主催／鶴岡「サムライゆかりのシルク」推進協議会

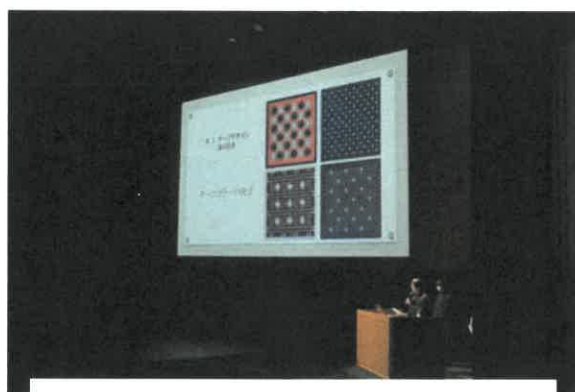
■参加協力校／山形県立鶴岡工業高等学校、山形県立鶴岡中央高等学校、山形県立鶴岡南高等学校

■参加人数／約500名

### 3. 開催風景



＜会場エントランス・展示コーナー＞



＜課題研究発表＞



＜シルクガールズコレクション＞

2019年に続いて第2回目となる今回は、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で無事開催することができました。

参加校では、課題研究にあたって、市内関連企業の協力のもと、シルクの総合学習が展開されました。また、絹を学び広く発信する「シルクガールズ」の活動は11年目を迎え、当該イベントのほかにも、市内の施設等でのミニコレクションなど普及活動を展開しています。こうした取組からは、若者の手によるシルクを活かした創造力、そして継承を担う強い熱意を感じることができます。

### 4. 今後の取組

鶴岡市は、明治5年に始まった松ヶ岡開墾から今年で150年の節目を迎えます。これを契機に、日本遺産としての価値と魅力を一層高め、将来における発展基盤の構築に向け、取組を進めてまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



## シルクのまちづくり市区町村協議会・構成団体等一覧

(令和3年3月21日現在)

### ■会員（32団体）

1	山形県鶴岡市	12	新潟県十日町市	23	滋賀県長浜市
2	山形県長井市	13	新潟県小千谷市	24	京都府京都市
3	山形県白鷹町	14	新潟県南魚沼市	25	京都府宮津市
4	福島県川俣町	15	石川県金沢市	26	京都府京丹後市
5	茨城県結城市	16	石川県小松市	27	京都府与謝野町
6	栃木県足利市	17	福井県勝山市	28	愛媛県西予市
7	栃木県小山市	18	山梨県富士吉田市	29	鹿児島県鹿児島市
8	群馬県富岡市	19	山梨県西桂町	30	鹿児島県奄美市
9	群馬県前橋市	20	長野県岡谷市	31	鹿児島県龍郷町
10	東京都新宿区	21	長野県駒ヶ根市	32	沖縄県久米島町
11	東京都武蔵村山市	22	長野県安曇野市		

### ◇役員

会 長 愛媛県西予市（市長 管家 一夫）  
副会長 茨城県結城市、滋賀県長浜市、新潟県十日町市  
監 事 福島県川俣町、長野県岡谷市

### ■特別会員[オブザーバー]

農林水産省、経済産業省関係部署担当課長

### ■事務局サポート

NPO法人日本染織文化振興会

### ■顧問（11名）

#### ◎ファッションジャーナリスト

清水 早苗氏 ジャーナリスト／クリエイティブ・ディレクター

#### ◎クリエイションコーディネーター

松田 正夫氏 繊維・未来塾 塾長／（株）大阪繊維リソースセンター特任顧問

岡田 茂樹氏 元東京ファッションデザイナー協会議長／元鶴岡 kibi so プロデューサー

#### ◎テキスタイルデザイナー

須藤 玲子氏 株式会社布取締役

酒井 美和子氏 （有）GBカンパニー代表取締役

福井 健二氏 K. FUKUI PERSONAL OFFICE&EA 主宰

永森 達昌氏 オフィス・ナガモリ代表

#### ◎和装

早坂 伊織氏 着物伝承家

笹島 寿美氏 着装コーディネーター・帯文化研究家

#### ◎研究機関

玉田 靖氏 信州大学 繊維学部 教授

長島 孝行氏 東京農業大学 農学部デザイン農学科 教授（農学博士）

藤井 浩司氏 早稲田大学 政治経済学術院政治経済学部／政治学研究科 教授

阿部 栄子氏 大妻女子大学 家政学部被服学科 学科長／教授（学術博士）

### ■協賛者等（24団体）

#### ◎蚕糸団体

（一財）大日本蚕糸会、中央蚕糸協会、碓氷製糸株式会社、蚕糸・絹業提携グループ  
全国連絡協議会

◎産地織物組合

鶴岡織物工業協同組合、福島県絹人織織物構造改善工業組合、小千谷織物同業協同組合、山梨県絹人織織物工業組合、滋賀県絹人織織物工業組合、丹後織物工業組合、本場大島紬織物協同組合、本場奄美大島紬協同組合

◎絹業団体

全国染色協同組合連合会、全国染織連合会、京友禅協同組合連合会、京都工芸染匠協同組合、日本織物中央卸商業組合連合会、(一社)全日本きもの振興会、(公社)全日本きものコンサルタント協会、(一財)シルクセンター国際貿易観光会館(シルク博物館)、東京ネクタイ協同組合、日本繊維輸入組合、新宿区染色協議会

◎その他団体

GS 世代研究会

## シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣旨

古来よりわが国に伝わる尊い宝、絹。

絹を用いる産業、すなわちシルク産業は、地域経済の中で重要な役割を果たし、地域の生活や風土に根付いた産業として我々の地域とともに発展してきました。同時に、悠久の歴史の中でこれら産業が培った技術により生み出される製品は、地域文化を育むと同時に、わが国文化の根幹に大きく関わり、地域の価値や日本の品格を伝えるものとして、産業・文化の両面で貢献しています。

ところが、社会・生活環境が急激に変化する中で、現在では資源の枯渇化や人材の不足、市場の縮小による需要減少など、地域のシルク産業の発展に支障が生じているとともに、近代化・平準化の中でわが国固有の誇りある文化の風化が危惧されているところです。

一般的に、シルク製品は、養蚕、製糸、織物、染色など多段階の工程の中で、それぞれに長年にわたって極められた究極の技術が、完璧なまでに調和され完成されます。またそのものづくりは、技術者同士の厚い信頼と連携の上に成り立ち、日本が誇るものづくりの原点ともなっています。さらに、世界においてもシルクは、かつてシルクロードという長大な交易ルートを創造し、産業を活性化するとともに東西文化の交流を育んできています。すなわちシルクは、単なる繊維素材ではなく、歴史的にも経済社会の様々な断面を相互に発展に導く共通のきずなであり、今後においてもシルクを通じた「連携」「国際展開」「産業活性化」「文化交流」などによって、様々な分野の未来に多くの示唆と可能性を与えてくれるものであると確信します。

こうしたシルクの持つ意味を改めて認識し、シルクに関連する産業、またはシルクに関係する歴史・文化を持つ市区町村が連携し、「シルク産業の活性化」や「シルク文化を活用した魅力ある地域づくり」など、シルクの意味を活用して新たな展望を切り開くため、「シルクのまちづくり市区町村協議会」を設立します。

平成22年1月26日



シルクサミット 2020in 丹後（京都府京丹後市）



富岡シルクブランド認証製品（群馬県富岡市）

編集／発行 シルクのまちづくり市区町村協議会

発行年月 令和3年3月

**【この情報誌に関するお問い合わせ先】**

令和2年度 シルクのまちづくり市区町村協議会事務局

（愛媛県西予市農業水産課西予市野村シルク博物館）

〒797-1212 西予市野村町野村8号177番地1

電話：0894-72-3710 F A X：0894-72-3710

メール：silkmuseum@city.seiyo.ehime.jp

ホームページ：<https://silktown.jimdo.com/>